

特講・福祉心理学12 (犯罪心理学)	単位数	履修方法	配当年次
	1	S	1 年以上
科目コード	FT2612	担当教員	大淵 憲一

※平成27年11/28・29のスクーリングを受講できる方のみ、10月末までに履修登録をお願いいたします。

■スクーリングで学んでほしいこと

日本は犯罪の少ない国と言われているが、それは事実なのか。近年、日本の犯罪はどのように変化してきたのか、現在の特徴は何であるかなど、犯罪の現状を正しく認識する。犯罪の原因については、貧困や差別などの社会的環境要因、性格や障害などの個人的要因、遺伝や生育環境などの発達要因などの関連から論じられてきた。それらに関する理論と実証的証拠を踏まえて、犯罪の原因を体系的に理解する。

■到達目標

- 1) 日本の犯罪の現状を説明できる。
- 2) 犯罪を誘発する社会的環境要因がなにか説明できる。
- 3) 反社会性の強いひとの個人的特徴がなにか説明できる。
- 4) 反社会性を形成する発達上の問題がなにか説明できる。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	現代日本の犯罪動向	近年の日本の犯罪特徴
2	犯罪の社会的要因：緊張理論	環境ストレスの影響
3	犯罪の社会的要因：下位文化理論	反社会的文化との接触
4	犯罪の社会的要因：統制理論	遵法生活を支える社会的絆
5	犯罪の心理学的アプローチ	犯罪性の強い人々の特徴
6	犯罪の個人的要因：生物学的要因	犯罪の遺伝的、生得的要因
7	犯罪の個人的要因：人格要因	犯罪者の性格分析
8	犯罪の発達経過	反社会性の形成過程
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイント（資料として配付）をもとに講義を進めます。教科書も適宜利用します。

■スクーリング評価の基準

授業への参加状況50% + スクーリング試験50%（すべて持込不可）

■スクーリング時の教科書

大淵憲一著『犯罪心理学』培風館，2006年。教科書は参考程度に使用します。

■スクーリング事前学習

犯罪についてどんなことを学びたいか，自分なりに課題を立ててスクーリングに臨んでください。

■スクーリング事後学習

スクーリングで学んだことを活用して，実際の犯罪事件を自分なりに分析を試みてください。

■参考図書

- 1) 谷口泰富・藤田主一・桐生正幸編『現代社会と応用心理学7：クローズアップ犯罪』福村出版，2013年
- 2) 日本犯罪心理学会編『犯罪心理学事典』丸善出版，2015年8月刊行予定

■講師紹介

大淵憲一 東北大学教授